



インドネシア・バリ・デンパサール空港で B737 墜落

2013年4月13日、インドネシアのバリ島、デンパサール空港にて Lion Air の B737-800 が着陸時に滑走路から 50m 手前の海へ墜落しました。機体は 2 つに割れ、衝撃の凄まじさを物語っています。デンパサール空港は過去にも JAL や ANA が直行便を飛ばすなど、日本人観光客にも大変馴染みのある空港です。報道によれば、新機材で目立った初期故障などはなく、当該 Pilot は 10,000 時間を超える飛行経験を持っていたようです。着陸時は周辺に積雲系の雲がありましたが、降雨は報じられていませんでした。

WADD 130800Z 10009KT 9999 FEW017CB SCT017 30/26 Q1007 NOSIG

WADD 130730Z 15006KT 110V270 9999 FEW017CB SCT017 30/25 Q1007 NOSIG

WADD 130700Z 09006KT 9999 BKN017 30/26 Q1007 NOSIG

事故の詳細はまだ分かっていませんが、フライトレコーダー等も回収されており、今後の事故解析が注目されます。



LION AIR 904 便

機番：PK-LKS

初フライト：2013年2月5日

エンジン：CFMI CFM56-7BE

乗員乗客：108名

死者：0名

出発地：[Bandung Airport](#)

使用滑走路：09

発生時刻：0715Z



デンパサール空港は滑走路の両端が直ぐ海に面しているのが特徴です。過去に ALPA Japan ニュースでも紹介した EMAS (ALPA Japan ニュース 33-28 & 43 参照) を導入する事が検討された事もありました。その他、インドネシアでは灯火設備や滑走路関係の設備が依然として不十分な空港が多く存在します。

以上